令和６年度 改訂

学力向上

大島の教育

Pamphlet1

～「大島モデル」の授業づくり～
授業充実の３ポイント

大島教育事務所

目　次

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・　1

１　「質の高い授業」の実現を目指して・・・　4

２　大島モデル　目指す子供の姿・・・・・・・　5

３　大島モデル　教師の姿・・・・・・・・・・　6

４　単元構想のポイント・・・・・・・・・・・　7

５　一単位時間の授業づくりのポイント・・・　10

〔ポイント１〕　目標の明確化・・・・・・・　13

〔ポイント２〕　山場の工夫・・・・・・・・　14

〔ポイント３〕　確かめ・見届け・・・・・・　15

６　指導方法の工夫・・・・・・・・・・・・・　16

発問について・・・・・・・・・・・・・・・　16

ＩＣＴの活用について・・・・・・・・・・　18

板書について・・・・・・・・・・・・・・・　20

家庭学習について・・・・・・・・・・・・・　21

はじめに

大島教育事務所では，平成 28 年４月に「大島の教育 Pamphlet」を改訂し，「質の高い授業づくり」に焦点を当て，授業改善や校内研修等で活用してきました。

現代は，社会の在り方が非連続的と言えるほど劇的に変化する予測が困難な時代です。その特徴である変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の頭文字をとって「VUCA」の時代とも言われています。

本パンフレットは，奄美の未来を担う児童生徒に，確かな学力を育成することができるよう，大島の授業改善に資することを願って作成したものです。また，今回の改訂では，大島地区の教壇に立つ先生方が，教えることのやりがいを感じ，豊かな教職人生を送ることができることへの願いも込められています。

そのために,「大島地区の歴史, つながる教師の思い」があることを最初に紹介します。

先輩方が，大島の子供たちのために蓄積してきた知見を生かし，研鑽できるように授業改善につなげていただきたいと考えます。ぜひ，活用していただき，授業づくりの一助になれば幸いです。

～大島地区の歴史，つながる教師の思い～

第２次世界大戦終了後，奄美群島はアメリカ軍の統治下に置かれ，孤立された絶望感や極度の貧困，そして食料不足など，生きるのに精一杯な状況でした。

当時は，奄美の将来を担う子供たちへの教育も，ままならない状況でした。

ほとんどの学校が粗末なかやぶき屋根の小屋で，机も椅子もノートもなく，屋外で授業を行う学校もありました。

【米軍統治下の学校の様子①】

より深刻な問題だったのが，新しい教育理念に基づいた教科書などが，奄美にはほとんど導入されていないことでした。

この状況を打破しようと，奄美の教育関係者たちは，「本土へ密航し，新しい教育を持ち帰る」ことを計画します。

命がけの密航に名乗りを上げたのは，中学校教師の深佐源三（35 歳）と，小学校教師の森田忠光（26 歳）でした。二人はアメリカ軍の厳しい監視をくぐり，戦後の新しい教科書や教育方針を奄美に持ち帰ることに成功します。そして, その後, 教師たちは新しい教育を奄美に根付かせようと奮闘しました。

それから 70 年が経ちました。現在，一人一台端末が整備され，デジタルとリアルによる学びが展開されるなど，教育環境は大きく向上しました。

しかし，長い年月が過ぎようとも，奄美の人々の郷土を愛する気持ちに変わりはありません。そして，今でも,「大島地区の子供たちによりよい教育を施したい」という教師の思いも変わりません。各学校では，日々，熱心な実践が多く行われています。その姿勢に敬意を表します。

～奄美群島日本復帰に関する郷土素材リーフレット～

大島教育事務所では，子供たちが，過去の歴史や先人の生き方を学ぶことができるよう，「奄美群島日本復帰に関する郷土素材リーフレット」を作成し，地区内の小中学校に配布しています。ホームページでも紹介しているので，ぜひご活用ください。

奄美群島日本復帰に関する郷土素材リーフレット
【小学校用】

令和５年度大島教育事務所

12月25日を忘れないでください

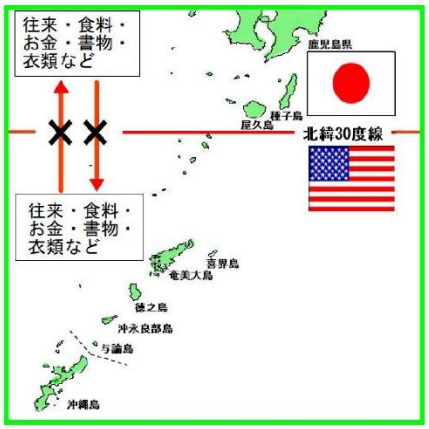
令和５年12月25日は，奄美群島が日本に復帰した70周年の日です。70年前，いったいどんなことがあったのでしょうか。私たちは，先人の思いを受け継ぎ，これからの社会をどのようにつくっていくべきでしょうか。

Ⅰ　何があったのだろう

1945年（昭和20年），日本は太平洋戦争で降伏し，北緯30度より南の奄美と沖縄を含む南西諸島と小笠原諸島は，日本本土と切り離され，アメリカ軍に統治されることになりました。

島民は自由を奪われ，不便な生活を送ることになりました。

※　アメリカ軍の統治：アメリカ軍に土地や人民が支配されること



Ⅱ　アメリカ軍の統治下での人々のくらしは，どのようなものだったのだろう

奄美群島は日本本土との自由な往来や連絡，送金などが禁止されていた。

【食べ物】
- 食料が不足した。
- アメリカ軍の支給する食料品が約３倍に値上がりした。
- サツマイモ，ソテツのおかゆ，木の実，果物，魚介類などで空腹をしのいだ。

【お金・仕事】
- 一日の労働賃金は，米２升分（現在の約1,000円）
- 仕事があまりない。
- 沖縄への出稼ぎが増え，奄美の活気がなくなった。

当時使われたお金（アメリカ軍発行）

【教育】
- 教科書，ノートなし
- 黒板，机，いす不足
- 学校は，そまつなかやぶき屋根造りの学校も多かった。

かやぶき屋根造りの学校

【その他】
- 黒糖，大島紬の生産量の低下
- 日本の新聞や雑誌を読むことができなかった。

大島紬

極度に不便な生活

現在の私たちの生活と比べて，どんな違いがあったのだろう。
また，不便な生活の中で人々はどのようなことを思ったのだろう。

Ⅲ　復帰運動は，どのように行われたのだろう

協議会の結成
「奄美大島日本復帰協議会」が結成され，議長に徳之島出身の泉芳朗氏が選ばれました。

署名運動
約３か月で当時の14歳以上の島民の99.8%が署名しました。

断食祈願
泉議長は「日本復帰の悲願を断食で世界中に訴えよう」と，名瀬の高千穂神社にこもって５日間の断食を行いました。

復帰運動
※　断食：修行や願かけのため，しばらく食べ物を口にしない命がけの行動

1952年（昭和27年），アメリカの駐日大使が「奄美群島の日本返還は，沖永良部島と与論島を除こうと考えている」と発言したと報道されると，両島はもちろん各地で復帰運動がさらに強まりました。

泉　芳朗　議長

断食祈願に集う人々（高千穂神社）

復帰を求める島民たち

泉議長や群島民は，どんな思いで，復帰運動や断食祈願を行ったのだろう。

Ⅳ　奄美群島日本復帰までにどのようなできごとがあったのだろう

1941年（昭和16年）	12月８日	太平洋戦争始まる。ハワイの真珠湾のアメリカ軍港とマレー半島のイギリス軍を日本軍が攻撃する。
1945年（昭和20年）	８月	広島・長崎に原爆が投下される。日本は８月15日に降伏し，終戦を迎える。
1946年（昭和21年）	２月２日	奄美群島・沖縄などが日本から切り離され，アメリカ軍の統治下に置かれる。
1951年（昭和26年）	２月14日	奄美大島日本復帰協議会が結成され，議長に泉氏が就任する。群島内で署名運動を開始する。わずか３か月間で，14歳以上の99.8%が署名する。
	８月１日	泉議長が名瀬の高千穂神社で５日間の断食を決行する。多くの市民も参加する。
	８月７日	11人の命がけの密航陳情団が枕崎などに上陸する。その後，東京で国会・政府などに島の窮状を説明し，大きな反響となる。
1952年（昭和27年）	９月	沖永良部島と与論島は返還から除くという情報が流れ，復帰運動がさらに強まる。
1953年（昭和28年）	８月８日	日本を訪問したアメリカのダレス長官が「奄美群島返還」の声明を発表する。
	12月25日	復帰運動が実を結び，奄美群島の日本復帰が実現する。

Ⅴ　先人の生き方から，どのようなことが学べるのだろう

1953年（昭和28年）12月25日午前０時，奄美群島は正式に日本へ復帰しました。日本でありながら日本ではなく，日本人でありながら日本人でなかった苦難の８年間が終わったのです。

泉議長を中心に，日本復帰を成しとげたこの運動は，暴力的に対立することや破壊活動を行うことなく，「奄美島民は日本人だ。奄美は日本だ。奄美を日本に返してほしい。」と平和的に熱く訴え続けた無血革命でした。

※　無血革命：話合いなどの平和的手段で達成される革命

私たちは，過去の歴史や先人の生き方を学ぶことによって，先人の思いを受け継ぎ，現在から未来につなぎ，これからの社会をどのようにつくっていくべきでしょうか。

「日本復帰の日のつどい」の様子

復帰運動が行われた名瀬小の石段に立つ児童

式典に参加する児童

【参考資料】「奄美群島日本復帰運動」「命がけの密航」（編集：晨原弘久 発行：大和村教育委員会）
【写真引用】「復帰前年，市長時代の日記など収録」（2022年12月22日 奄美新聞社），奄美市ホームページ

1　「質の高い授業」の実現を目指して

～授業づくりで大切にしたいこと～

「教師は授業が命」と言われます。

子供にとって，学校生活の大半が授業であり，授業が充実することが学校生活の充実にもつながります。また，授業時間は，子供にとっては一期一会の時間で，再び繰り返すことのない貴重な時間です。

子供の期待や学習しようとする意欲に応えるために，質の高い授業づくりに力を注ぐことが教えることの専門職である私たちの使命です。

大村はま先生の言葉に次のようなものがあります。

> 平常の，聞いたり，話したり，読んだり，書いたりするのに事欠かない，何の抵抗もなしにそれらの力を活用していけるように指導できていたら，それが私が子供に捧げた最大の愛情だと思います。

子供に付けたい力がしっかりと身に付く授業にするためには，教師が教えるべきところはしっかりと教えたり，子供が自己選択・自己決定しながら学び取ったりする授業づくりに努めていく必要があります。

そのために，単元構想や一単位時間の授業デザインを丁寧に行い，教材研究を行った上で，しっかりと伴走できるような教師の準備が必要です。

本地区では，目指す授業モデルを「大島モデル」とし，単元構想や授業デザインに当たって，教師が押さえるべきポイントを３つ設定しています。

〔「大島モデル」の授業づくりの推進〕

授業充実の３ポイントを踏まえた，児童生徒が自ら学びとる「質の高い授業」

「目標の明確化」，「山場の工夫」，「確かめ・見届け」

～単元構想・授業デザインのポイント～

ポイント１【目標の明確化】

ゴール（子供が身に付ける力）が明確な授業

ポイント２【山場の工夫】

思考を深めるための学習活動や指導の工夫がある授業

ポイント３【確かめ・見届け】

分かるようになった・できるようになった実感のある授業

※　授業充実の３ポイント（「目標の明確化」「山場の工夫」「確かめ・見届け」）は，「教師の働きかけ」であり，学習過程（導入・展開・終末）と同義ではありません。なお，学習過程（導入・展開・終末）に沿って位置付ける場合もあります。

２　大島モデル　目指す子供の姿

質の高い授業づくりを行うためには，子供がどのような姿で学びを進めていくのか，そのために，教師はどのように伴走すればよいのか，具体的にイメージをもっておくことが重要です。

そこで，本パンフレットでは，目指す子供の姿を具体化することにしました。具体化に当たっては，「主体的・対話的で深い学び」の実現や本地区に見られる課題を踏まえて，「学びを自己調整する姿」「見方・考え方を働かせる姿」を視点にすることにしました。

やってみよう！観の交流①

目指す子供の姿

学びを調整する姿，**見方・考え方**を働かせる姿

導入では

- 興味・関心をもつ姿
- 自分で問いや課題を見いだす姿
- 結果や解決方法を見通す姿
- 学習の計画を立てる姿

展開では

- 自分なりの考えをもつ姿
- 級友と考えや情報を交流する姿
- 考えや情報を精査する姿
  （比較する，関係付ける，分類する，理由付けるなど）
- 学習方法を選択・決定する姿（道具，学習形態，学習時間）
- 学習進度や達成状況・学習方法を途中で確認する姿
  学習進度や達成状況を踏まえて，学びを調整する姿
- 自分や集団の考えを再構築して，まとめる姿

終末では

- 学んだ内容や達成度を振り返る姿
- 学び方を振り返る姿
- 次の学習活動を見通す姿

※　Ｐ６以降も「学びを調整する」「見方・考え方を働かせる」ことを視点にしています。

３　大島モデル　教師の姿

質の高い授業では，教師が，「ファシリテーター的な役割」をすることが重要です。

日本ファシリテーター協会によると，「ファシリテートする」とは，「人々の活動が容易にできるよう支援し，うまくことが運ぶように舵取りすること」とされています。

このことを授業に当てはめると，子供は「有能な学び手である」という認識のもと，学びに関わる多くの選択・決定を子供に委ねた上で，支援することだと考えられます。

学びの支援に当たっては，教科の目標を達成するために，子供の学びの姿（事実）を丁寧に見取り，子供にとって必要なタイミングで必要な内容を提示できるようにしたいものです。

※　一斉・一律・一方向の指導も必要ではありますが，一斉・一律・一方向に偏りすぎていた授業から，「学習者主体の授業」へと転換することが重要です。

やってみよう！観の交流②

授業での教師の姿　～子供の学びをファシリテートする！～

■　子供は「有能な学び手である」と信じる。

■　学びに関わる多くの選択・決定を子供に委ねる。
（「教える場面」と「考えさせる場面」の適切な組合せ）

■　つぶやきや活動の様子など，子供の学びの姿（事実）をしっかりと見取る。

■　子供にとって必要なタイミングで資料や情報等を提示できるように，万全に準備する。

・　また，授業を支える土壌として，教師の温かい言葉かけや関わりを通して，子供と信頼関係を築いておくことが重要です。日頃から，以下のような取組を行いたいものです。

日頃の教師の姿　～子供との信頼関係づくりをする！～

□　一人一人を認め，よさに着目し，そのよさを伸ばそうとする。

□　子供の発言を受け止め，尊重することができる。

□　互いに認め合い・励まし合い・支え合う学習集団づくり，支持的風土の醸成を行う。

□　学習のルールを子供と共有する。
（話合いの仕方，タブレット端末などの学習用具の使い方，ガイドの役割　など）

□　安全かつ安心して，個に応じた学びができる環境をつくる。

□　子供に学ぶ姿勢をもち，自己の指導力を磨き続ける。

４　単元構想のポイント

～単元（題材）構想の手順～

奄美の未来を担う子供たちに，生涯にわたって学び続ける力の育成が必要です。そのためには，学校の授業も，学びの連続である必要があります。

子供の興味・関心を喚起し，学習が持続できるようにするためにも，数時間のまとまりがある指導計画を立てていく必要があります。

そこで重要なのが，単元構想です。

教科や単元の特性，子供の発達段階等を踏まえて，単元構想を工夫しましょう。単元構想を綿密にしておくことで，１単位時間の計画も立てやすくなります。

単元構想を進めるに当たっては，以下が基本的な流れとなります。構想を練る中で，「目標」「指導内容」「指導方法」を行き来しながら，次第に具体化していくイメージをもっておきましょう。

単元構想の手順　～内容や時間のまとまりを見通す！～

「単元内自由進度学習をやってみよう」という構想の仕方ではなく，**単元のねらいを達成することを目的**として，子供にとって効果的な学びができるように単元構想をしましょう！

１　単元の**目標**を設定する

- 学習指導要領で，「教科の目標」や「学年の目標」などを確認する。

２　単元の**学習内容**を決める

- 学習指導要領で，「指導内容」を確認したり，重点化したりする。

３　**子供の実態**を踏まえる

- 子供の発達段階や既習事項の定着度，興味・関心，学級集団の雰囲気等を踏まえる。

４　単元で扱う**教材・教具**を決める

- 教科書で重点的に扱う箇所を決める。
- 補助教材（副読本・指導書・資料集等）や教具を決める。

５　単元の**指導計画**を作成する

- 学習内容の配列（順序）を考える。
- 時数を設定する。
- 子供の困難点やつまずきを予想する。
- パフォーマンス課題等を設定する。
- 評価計画を立てる。

目標を立てたり，見通しをもったりすることの大切さを述べた名言に，次のようなものがあります。

志を立てて　以て　万事の源となす

吉田松陰

単元構想，授業づくりでも大切にしたい言葉ですね。

学級内の子供たちの実態が多様になっていると言われています。

大島地区の全ての子供たちに資質・能力を育成するためには，子供たちが多様であることの認識をもち，個に応じた指導を行うことが必要です。

個に応じた学習活動として，学習指導要領総則編には，個別学習，グループ別学習，繰り返し学習，学習内容の習熟度別学習，児童（生徒）の興味・関心等に応じた課題学習，補充的な学習や発展的な学習が例示されています。

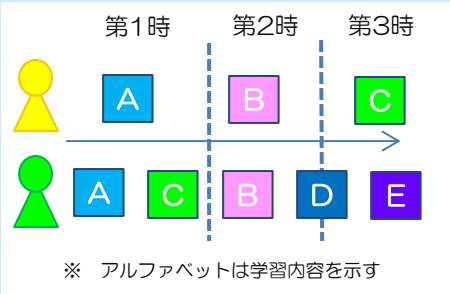
中でも，本地区の課題から，子供の「見えない学力」の向上を図る必要があるため，「児童（生徒）の興味・関心等に応じた課題学習」を推進することが一層求められます。

「児童（生徒）の興味・関心等に応じた課題学習」は，以下のようなパターンが考えられます。

児童（生徒）の興味・関心等に応じた課題学習の例

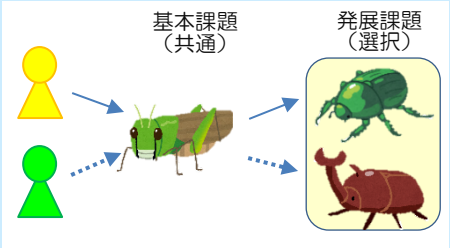
単元内自由進度学習

子供たちが自分で学習計画を立て，自分のペースで学ぶことができる学習。右の図は，自分のペースで学ぶことができ（学習時間の工夫），また，学習内容Ａ～Ｅの順番も自分で選択・決定することができる例である。（なお，単元の指導内容Ａ～Ｃで，Ｄ・Ｅは発展的な内容と想定）



発展課題学習

共通する基本課題を終えた後で，更にやってみたいと思う発展課題を「選択」することができる学習。右の図は，小学校理科で，クラス全体でバッタの学習した後，コガネムシ，カブトムシのように選択して学習する例である。

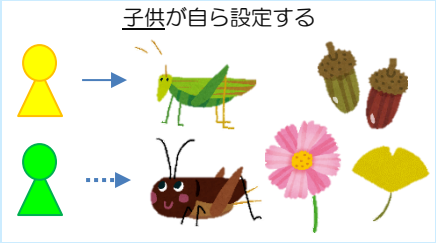


課題選択学習

教師が提示する課題の中から一つ「選択」し，単元を通して追究する学習。右の図は，小学校理科で，単元の初めにバッタ，コガネムシ，カブトムシの中から一つを選び，単元を通して学習する例である。

自由課題学習

子供が，自分の興味・関心に応じて自ら学習課題を「設定」して学ぶ学習。右の図は，小学校生活科「あきをさがそう」という単元で，秋の生き物や木の葉・木の実など，子供の気付きを基に課題を設定して学習する例である。



単元構想の具体的な例として，中学校社会科歴史分野「（３）近代の日本」を紹介します。下の単元を構想するに当たって，以下のような工夫を行いました。

- 第１節（中項目）と第２節（中項目）を組み合わせて，大きなまとまり（全 10 時間）で単元づくりを行う。
- 生徒が主体的に学ぶことができるように，自由進度型の学習を取り入れる。
- 獲得した知識を相互に結び付けて深く理解することができるよう，終末において，一斉型の学習を取り入れる。

単元の指導計画　～中学校社会科　歴史分野の例～

単元名「欧米における近代化の進展」と「欧米の新出と日本の開国」（10 時間）東京書籍

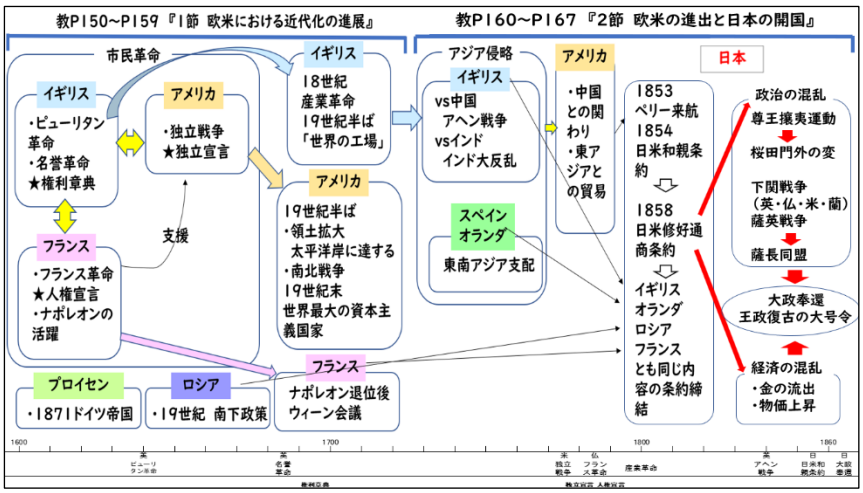
時	型	学習活動	指導上の留意点
一～五	一斉型	・　単元全体を貫く学習課題の設定 欧米諸国の近代化は幕府にどのような影響を与えたのだろうか。 ・　学習計画を立てる。 ・　課題解決に向けて，追究する。 【第１節　欧米における近代化の進展】 ①　イギリスとアメリカの革命 ②　フランス革命 ③　ヨーロッパにおける国民意識の高まり ④　ロシアの拡大とアメリカの発展 ⑤　産業革命と資本主義	欧米の近代化の進展と江戸幕府の衰退をつなげて捉えられるように単元構想してみました。 ・　２つの単元の学習形態（一斉型か自由進度型）を示し，単元全体の見通しをもたせる。 ・　小学校の既習事項であるペリー来航につながるように，欧米諸国の動きを理解させる。 ・　近代化に伴い欧米諸国が国力を高めていったことを理解させる。
六～九	自由進度型	【第２節　欧米の新出と日本の開国】 ①　欧米のアジア侵略 ②　開国と不平等条約 ③　開国後の政治と経済 ④　江戸幕府の滅亡	・　第１節での学習を踏まえて，力を付けた欧米諸国がアジアへ進出していった動きと日本に与えた影響を調べられるようにする。
十	一斉型	・　単元全体を貫く学習課題「欧米諸国の近代化は幕府にどのような影響を与えたのだろうか」に対するまとめ	・　欧米諸国及びアジア諸国の動きを中心に江戸幕府が滅亡に至る流れをまとめさせる。

大島地区内でも，　研究授業などにおいて，単元構想に工夫を凝らして授業が行われたにも関わらず，「子供の学びを深め切れてなかった」と感じる授業者も多いようです。

単元構想に当たっては，教師が，学習内容や教材をしっかりと分析しておくことが大切です。

右の図は，学習内容を丁寧に分析し，学習内容の配置図とした一例です。

自分に合ったやり方，教科・領域に合った方法で，学習内容や教材の分析を充実させましょう。



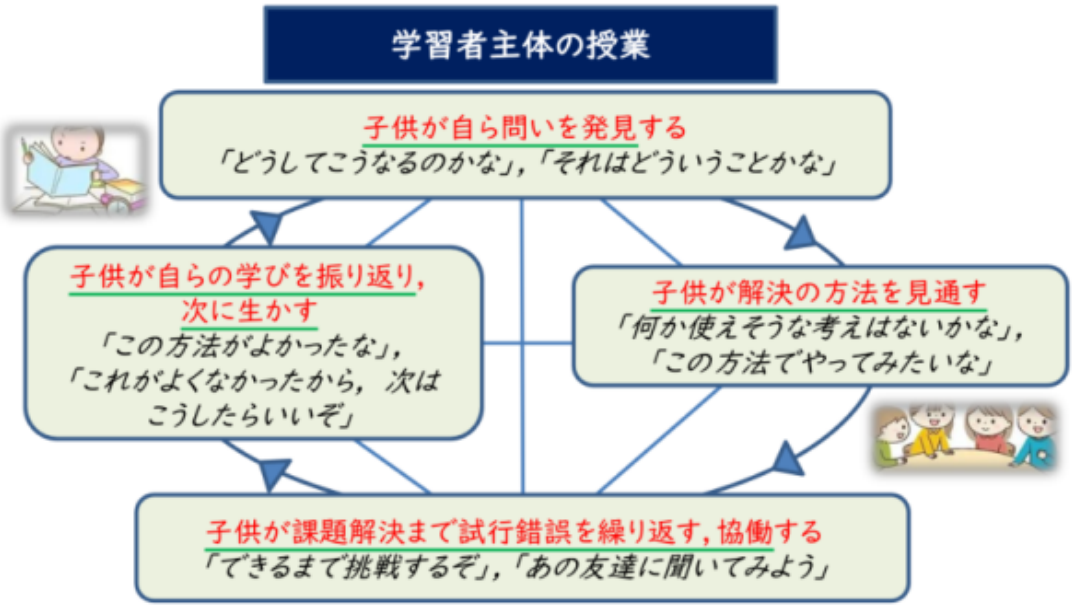
【単元全体を見通した学習内容項目の配置図（例）】

５　一単位時間の授業づくりのポイント

～目指す授業のイメージ～

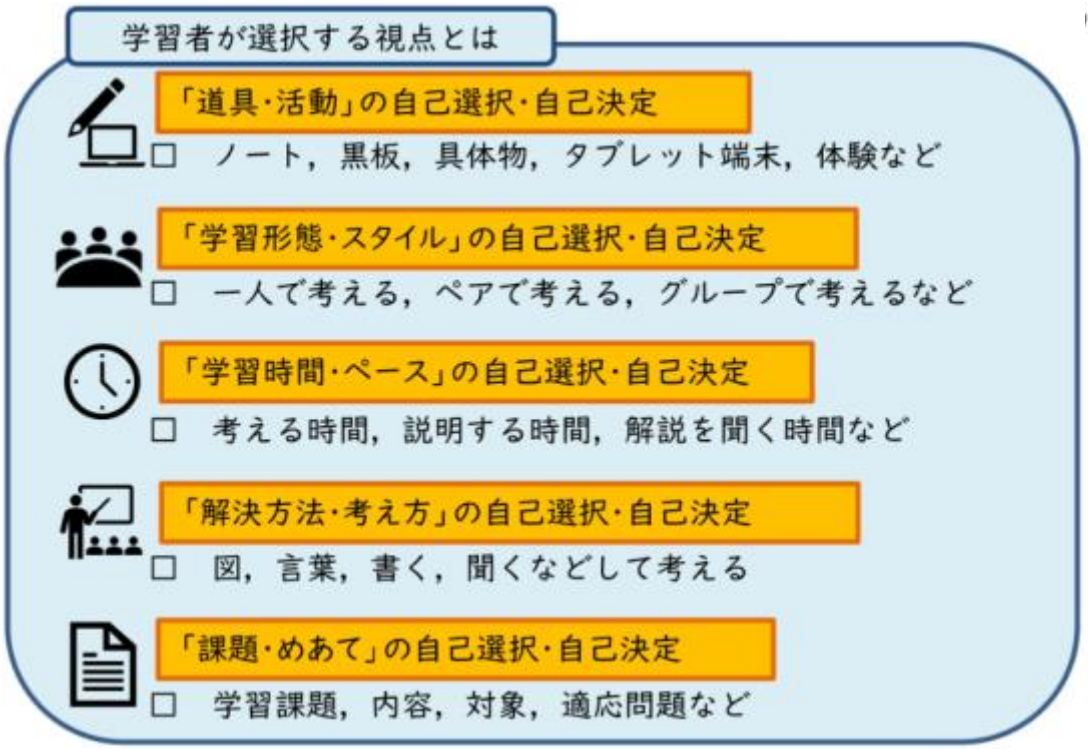
鹿児島県教育委員会は，目指す授業像として，「学習者主体の授業」を提案しました。

「学習者主体の授業」では，下の図のように「子供が自ら問いを発見する」「解決の方法を見通す」「課題解決まで試行錯誤を繰り返す，協働する」「自らの学びを振り返り，次に生かす」といった活動に取り組み，各教科等の「見方・考え方」を働かせながら資質・能力を身に付けていきます。



「学習者主体の授業」づくりを行うことで，子供が自己選択・自己決定する機会を確保し，学び方を身に付けさせることが重要です。

鹿児島県総合教育センターでは，学習者が選択する視点として以下の五つを示しています。



～質の高い授業とは～

本地区では，「大島モデル」として，授業充実の３ポイント（目標の明確化，山場の工夫，確かめ・見届け）を踏まえた質の高い授業づくりの推進を掲げています。

質の高い授業とは，子供たちが学校で学ぶ楽しさを味わいながら，主体的に学び，各教科等の特質に応じた資質・能力を高めていく授業です。

本地区が掲げる「大島モデル」と全国学力・学習状況調査の質問紙を踏まえて，質の高い授業を学習過程に沿って具体化すると，次のようになります。

ぜひ，先生方の学校，学年部・教科部でも語ってみてください。

やってみよう！観の交流③　**質の高い授業とは!?**

導入では…

ゴール（身に付ける力，課題・めあて）が明確な授業

- 学習への興味・関心や意欲が高まる授業
- 自分なりの問いや課題をもつことができる授業
- 課題の解決に向けて，自分から取り組むことができる授業
- 自分で学び方（学習時間，学習形態，使う道具など）を選択・決定することができる授業

展開では…

思考を深めるための学習活動や指導の工夫がある授業

- 自分に合った学び方（学習時間，学習形態，使う道具など）で学び，学ぶ楽しさを味わうことができる授業
- 話し合う活動などを通じて，新たな考え方に気付いたり，考えを深めたりすることができる授業
- 試行錯誤しながら，自分の考えを再構築することができる授業
- 考えや作品などを，子供が互いに認め合ったり，先生が認めたりする授業

終末では…

分かるようになった・できるようになった実感がある授業

- 分かった点や分からなかった点を見直し，次に生かすことができる授業
- 学んだことを実生活と結び付けて考えたり，生かしたりすることができる授業

～授業づくりに欠かせない・・・教材研究～

上のような質の高い授業を行うためには，日頃から「子供の実態を把握すること」や「認め合い協力し合う集団づくりを行うこと」，「授業のルールを子供と共有すること」など，授業づくりの土台となる取組も重要です。

そして，最も重要なことが「教材研究」です。「教師は教材研究の深さだけしか教えることができない」とも言われます。

教材研究をしっかりと行い，授業充実の３ポイント「目標の明確化」「山場の工夫」「確かめ・見届け」を押さえた授業づくりを心がけましょう。

なお，教材研究の仕方は次頁のとおりです。

教材研究チェックリスト ～授業づくり，振り返ってみましょう～

□ 資質・能力を意識して，**本時の目標設定**をしていますか。

- 本時で育成を目指す資質・能力（「知識及び技能」「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」）を明確にして，目標設定を行いましょう。

□ 単元のつながりを踏まえて，**本時の指導内容**を設定していますか。

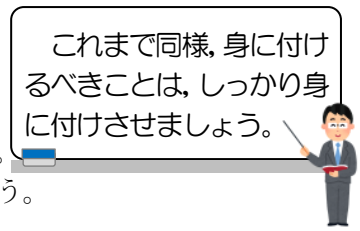
- 内容の系統性を分析しましょう。
- 教材（教科書・副読本・指導書・資料集など）を分析しましょう。
- 現地の視察，予備実験，参考作品の作成など，体験を通して教材を設定しましょう。

□ **子供の実態**を捉え，本時の指導に生かしていますか。

- 前時までの学習や日頃の様子・実態調査を基に，子供の実態を的確に捉えましょう。

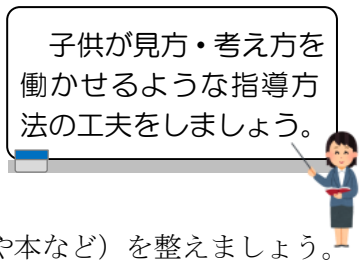
□ 効果的な本時の**指導計画**を立てていますか。

- 授業充実の３ポイント（目標の明確化，山場の工夫，確かめ・見届け）を踏まえましょう。
- 子供が考える場面と教師が教える場面を想定しましょう。
- 子供の実態に応じて，単元の再構成も視野に入れましょう。



□ 本時の**指導方法**を工夫していますか。

- 子供が自分ごととして捉えられるように，学習問題（課題）を想定しておきましょう。
- 発問，板書，学習形態，教材・教具を工夫しましょう。
- 体験活動を取り入れましょう。
- 学習環境（学習時間，学習スペース，ＩＣＴ機器・動画や本など）を整えましょう。



□ 本時の**評価計画**を立てていますか。

- 評価の観点や評価規準，評価方法を決めておきましょう。

教師には，様々な業務があり，日々の業務に多忙感を抱えている先生方も少なくありません。そのような中だからこそ，業務の効率化の視点を取り入れて，効果的・効率的に教材研究を行うことも大変重要です。

そのための例として，「組織的な取組」や「データベースの活用」が考えられます。

ぜひ参考にして，自校の実態に合った方法を見いだしてみてください。

効果的・効率的な教材研究

■ 組織的な取組
小学校は学年部会，中学校は教科部などで，情報や教材の共有をする。

■ データベースの活用
教材・教具・評価問題をデータで保管し，学級や年度の枠を超えて共有する。

次ページからは，授業充実の３ポイントや指導方法の工夫について具体的な提案を掲載しています。

ポイント１

目標の明確化

目標の明確化のポイント

子供が主体的に学習することができるようにするために，興味・関心をもたせた上で，課題意識を喚起し，解決に向けた活動の見通しをもたせることができるようにしましょう。

ポイントは，「授業開始 10 分以内」「全員参加を意識する」ことです。

興味・関心が生まれる導入

教科等や単元の展開によっては，既に，子供が，本時の見通しをもっている場合があります。

そのような場合は，導入を簡潔にしましょう。

本時で，子供にもたせたい興味・関心は？

【探　究　心】「えっ」「どうして」と驚き・調べたいと感じる
【挑　戦　心】「やってみたい」「できそうだ」と感じる
【知的好奇心】「もっと知りたい」「分かりたい」と感じる
【自　律　心】「自分で考えて学ぶことができる」と感じる
【必　要　感】「必要がある」「生活に生かせる」と感じる
【目 的 意 識】「～のために取り組むんだ」と理解できる

そのために

教師の働きかけを工夫しましょう！

- ■　具体物を示す（実物，模型など）
- ■　実演して見せる
- ■　実際に体験させる
- ■　ＩＣＴを使って提示する（写真，動画，グラフなど）

課題・めあての設定

【課題・めあてを設定する手順】

一人一人の驚き・疑問などを広げる

↓

驚き・疑問などを整理する・しぼる
（複数をまとめる，優先順位をつける，取捨選択する）

↓

個が追究する課題・めあて

みんなで追究する課題・めあて

よい課題・めあてのチェックポイント！

- □　教科のねらいに適合しているか。
- □　適度な難易度か。
- □　一問一答では答えることができず，考え続けるものか。
- □　問いを追究する筋道に多様性があるか。
- □　これまでに学んだ内容や方法を用いて考えることができるか。

課題解決の見通し

「見通しをもつ」とは

結果の予想と解決の方法（学習時間，学習形態，使う道具など）を見通すこと

教師の働きかけを工夫しましょう！

- ■　予想を直感させる（挙手する，予想を書かせるなど）
- ■　子供の実態に合わせて，解決方法を見通させる（①教師が示す ②教師が示して子供に選択させる ③子供に決定させる など）

ポイント２

山場の工夫

山場の工夫のポイント

　教師と子供が，身に付けた知識や能力を総動員して問題解決を図り，教科の本質に迫っていくことができるようにしましょう。
　ポイントは，「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ，「主体的・対話的で深い学び」につなげることです。

最初の考え（仮説）の構築

　子供の思考を深めるためには，教師が話す量を減らし，すぐに説明をしたり，解説をしたりしないことが重要です。

個別最適な学び
と
協働的な学び

一体的な充実を
通して･･･

主体的・対話的で
深い学びの充実
特に・・・

- 問題を見いだして解決策を考える
- 情報を精査して考えを形成する
- 思いや考えを基に創造する
- 知識を相互に関連付けてより深く理解する

の過程を重視する！

教師の働きかけのポイント

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実する！

□　個やグループが，目的や目標をもっているか確認する。
□　個やグループが，学ぶ方法を見通しているか確認する。
□　個やグループが，学びを選択・決定できるように学習環境（学習時間・活動場所・使う道具など）を整える。

【更に学習の自由度をもたせる場合】
○　ＩＣＴを活用した学習環境の整備
　学習計画表，学習の手引き，学習状況の記録，学習記録データの活用，他者参照・協働編集できるツール

□　実態把握に努め，子供が必要なタイミングで支援する。

　教師には，子供のつぶやき・発言・表情等から子供の実態を把握する力（子供を見取る力）が欠かせません。そのような力を養うために，日頃の授業づくりにおいて，子供の姿を想像し，つまずきなどを予測することを積み重ねることが重要です。
　ＩＣＴを活用して，効果的・効率的に見取ることも大切にしたいものですね。

見方・考え方を働かせる！

子供の姿を想定して，授業を構想しましょう。

■　「何に着目するか」「どのように考えるか（比較する，関係付ける，分類するなど）」を想定しておく。
■　発問や資料を準備したり，場面や活動を設定したりする。
■　子供が「見方・考え方」を働かせている姿を捉えて，称賛や価値付けを行う。

最終的な考えの構築（課題・めあての解決）

　自分の考えが変容したり，深まったりしたことに気付かせましょう。

ポイント３　確かめ・見届け

確かめ・見届けのポイント

子供が，学習内容を定着させ，自身の学びの過程や変容を自覚できるようにしましょう。そうすることで，学習への満足感を味わい，次の学習への意欲を高めることができます。

ポイントは，「確かな見届け」と「振り返りの視点」です。

終末の時間 10 分をしっかりと確保できるよう，タイムマネジメントに心がけましょう。

学習のまとめ

学習のまとめの意義

本時の課題・めあてに対して，本時の学習で「何を学んだか」「どんなことが分かったのか」を明確にする。

学習をしっかり締めくくる，学習のまとめ！

【教師が示す場合】

- □　課題・めあてに対応させる。
- □　板書や子供の発言を用いる。(教師による押しつけにならないように)

【子供が各自でまとめをする場合】

- □　ノートやワークシート・板書など，学習したものを基にして書かせる。
- □　条件（字数，時間など）や制限（キーワードの使用，構成など）に応じて書かせる。

習熟

習熟の意義

学んだ事柄を新しい課題や日常生活に適用させたり，理解が足りない箇所を補充したりして，学習内容の定着を図る。

習熟でさらに高める！

- □　演習問題，ＡＩドリルなどを効果的に活用する。
- □　行き当たりばったりではなく，習熟に適した問題を事前に準備しておく。

振り返り

振り返りの意義

学習への満足感を高め，次の学習への意欲を喚起する。また，自分に合った学習方法を身に付ける。

【終末にもたせたい感情】

- 達成感
  「分かった」「できた」
- 自己有能感
  「次もやれそうだ」
  「また頑張ろう」
- 一体感
  「一緒でよかった」
  「みんなで学習すると楽しい」

学習を振り返り，次につなげる！

- □　振り返りの目的を子供たちと共有する。
- □　振り返りの時間を確保し，習慣化する。
- □　振り返る視点を焦点化し，子供たちと共有する。

振り返りの視点（例）

視点	具体的な内容
□　学んだ内容を整理する	「できるようになったこと」や「解決しなかったこと」などを振り返る
□　学び方を振り返る	自分が選択・決定した学び方（学習時間，学習形態，使う道具）について振り返る。
□　他者と振り返りを共有する	・　互いの取組の良さに気付き，互いに伝え合う。 ・　友達の振り返りを参考にする。
□　次の学びを見通す	次の学習に生かしたいことを見いだす。

６　指導方法の工夫

～発問について～

質の高い授業の展開に欠かせないものの一つに，発問があります。

優れた発問は，課題追究する活動に子供を没入させ，新たな視点をもたせたり思考を深めたりすることを促します。

質の高い授業づくりに向けて，発問の工夫をすることは，教師の使命とも言えます。

発問を工夫する際に参考になる例を，以下にいくつか示します。

発問の工夫　～思考を広げ，深める！～

１　発問の意図の例

本時のねらいや教材の内容・学習活動を踏まえて，子供にどのようなことを思考させたいのか，何に気付かせたいのか，その意図を教師が明確にもっておくことが重要です。発問における意図は，以下のようなものが考えられます。

- 定着度を問う
  （例）「形容詞って，どんな働きをするんだったかな。」
- 解釈を問う
  （例）「この部分から，どんなことが分かるの。」
- 予想・類推を問う
  （例）「これまでの学習から，どんなことが言えそうかな。」
- 根拠を問う
  （例）「なぜそう思ったの。」「どのように考えたの。」「その理由は。」
- 共通点や相違点を問う
  （例）「何が同じで，何が違うかな。」
- プロセスを問う
  （例）「どんな順番で考えたの。」
- 「見方・考え方」を働かせるために問う
  （例）〔理科〕「○○と□□を比べて，共通点や相違点を整理してみよう。」

なお，「見方・考え方」を働かせる発問づくりの例は，次のとおりです。

子供に「見方・考え方」を働かせる発問づくりの例（算数・数学科）

【算数・数学科における数学的な見方・考え方】
事象を，数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，根拠を基に筋道を立てて考え，**統合的・発展的**に考えること

観点	発問の工夫（例）
統合的な考え方	● まとめて言えることはないか。 ● 似ているところ，同じところはないか。 ● 今までに学習したことと，同じところはどこか。　など

発展的な考え方	● 異なる見方・考え方はできないか。 ● 学習したことが，どんなところで使えそうか。 ● 次に学習したいことはどんなことか。 ● 条件を変えたらどうなるか。　　など

2　学習過程に沿った発問の例

発問を事前に計画し，主要な発問と補助発問を効果的に組み合わせることが重要です。発問を事前に計画した上で，子供の理解の実態等に応じて，その場で臨機応変に発問を加えたり，準備していたものを修正して発問したりすることも教師にとっては必要なスキルです。以下は，学習過程に基づいた発問例です。

学習過程	発問の働き	発問の例
導入	**学習活動への見通しをもたせる** ○　問題を明確にする	・　今日は何がはっきりするといいですか。
	○　解決への見通しをもたせる	・　どんなことに取り組めばよいですか。
展開	**課題解決に向けて個やグループ等での学習活動を充実させる** ○　根拠や理由に基づいて思考・判断・表現させる	・　□□さんが考えた理由は何ですか。 ・　みなさんは，なぜだと思いますか。
	○　多様な考えを引き出したり，思考をゆさぶったりする	・　◇◇が，最もよい方法だと思いますか。
終末	**学習をまとめ，整理する** ○　学習のまとめを文章で表現させる	・　まとめは，どのようになりますか。
	○　本時の学習の成果や課題を整理させる	・　できるようになったことは何ですか。 ・　はっきりしなかったことは何ですか。
	○　学び方を振り返らせる	・　大切だと思った考え方や方法は，どんなことですか。

前ページ「1　意図を明確にする」と関連させて，意図的・計画的な発問に心がけましょう。

3　分かりやすい発問にするポイント

教師が発問をする際，全ての子供が「教師が問いたいこと」を理解できるようにすることが欠かせません。そのような発問をするために，意図的・計画的に発問することに加えて，以下のようなポイントを踏まえることを心がけましょう。

- ● 子供にとって，言葉が難しい発問　⇒　○ 平易な言葉を使った発問
- ● 何度も言い直す発問　⇒　○ 一度で意図が伝わる発問
- ● 教師の発話が長い発問　⇒　○ 長すぎず，簡潔な発問
- ● 一度に，複数のことを尋ねる発問　⇒　○ ポイントを絞った発問

◎ 図・表・絵など，子供が視覚的に捉えやすくなる工夫も取り入れましょう。

◎ 発問の後，子供が考える時間を確保しましょう。

～ＩＣＴの活用について～

授業でのＩＣＴ活用には，下に示すように，教員による活用と子供による活用の二つがあり，授業デザインをする際には，子供の学びにとって最も効果的な活用の仕方を考えることが大切です。

授業デザイン時におけるＩＣＴ活用の視点

	教員によるＩＣＴ活用	児童生徒によるＩＣＴ活用
目的	**各教科等の目標達成** 教員自身が，下記の視点でコンピュータやプロジェクタなどを活用して効果的な提示を行う。	**児童生徒の情報活用能力育成** 児童生徒が，下記の視点でＩＣＴを活用して課題を解決する。
活用の視点	ア　学習に対する児童生徒の**興味・関心を高める**ための活用 イ　児童生徒一人一人に**課題をつかませる**ための活用 ウ　分かりやすく**説明したり**，児童生徒の**思考や理解を深めたり**するための活用 エ　学習内容をまとめる際に児童生徒の**知識の定着を図る**ための活用 オ　**児童生徒の学習状況を把握**し，指導に生かすための活用	ア　**情報を収集したり，選択したり**するための活用 イ　自分の考えを**文章にまとめたり**，調べたことを**表や図にまとめたり**するための活用 ウ　分かりやすく**発表したり，表現したり**するための活用 エ　繰り返し学習や個別学習によって，**知識の定着**や**技能の習熟**を図るための活用 オ　**他者の学習状況を把握**し，自分の学びに生かすための活用

「教職員のための研修の手引き」（鹿児島県総合教育センター）を参考に作成

また，教育の情報化に関する手引きー追補版ーでは，以下のとおり，ＩＣＴを効果的に活用した学習場面の 10 の分類例が示されています。

「教育の情報化に関する手引きー追補版ー」（文部科学省）を基に作成

授業での ICT 活用実践例

実践例①　伊仙町立犬田布小学校

1　単元名

第５学年社会科　「自動車をつくる」

2　単元の目標

- 自動車生産に関わる人々の工夫や努力を理解することができる。
- 自動車生産に関わる人々の工夫や努力について考え，表現することができる。
- 自動車生産について，主体的に学習課題を追及し，解決しようとしている。

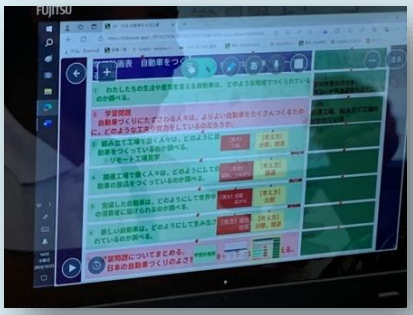
3　授業の実際（３／７時）

学習課題　組み立て工場で働く人々は，どのように自動車を作っているのか調べる。

導入

〔目標の明確化〕

- 単元計画をロイロノートで共有し，確認
- 学習の見通しがもてるよう，黒板に掲示



ロイロノートを映した画面

学習の見通しを掲示した板書

展開

〔山場の工夫〕

- 教科書や企業のリーフレット，動画等を準備
- 調べたことを思考ツールに整理
- 調べたことを，グループで Web 図に整理

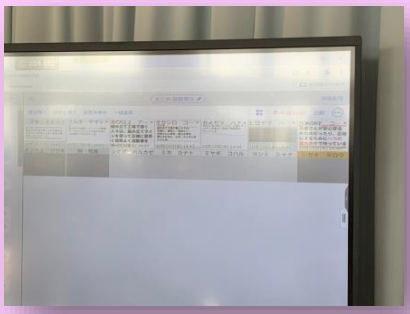
思考ツールを使う場面

グループで Web 図に整理

終末

〔確かめ・見届け〕

- それぞれのまとめをロイロノートで共有
- 終わったら確認テストに回答
- 最後に，学級全体でまとめを共有



ロイロノートでまとめの共有

確認テストへの回答

～板書について～

板書は，子供の学びの足跡を「残す」ものであり，「授業の証である」と言われます。

最近では，授業の中でＩＣＴを活用する機会が多いため，授業後に板書が残されていない授業を見かけることもあります。

しかし，子供の考えを整理し，学習結果をまとめ，理解を確かなものにするためにも，板書の工夫を心がけたいものです。

板書は，教師と子供たちとの学びの中でつくり上げられていくものですが，主な板書のポイントは次のとおりです。

よい**板書**とは!?　～子供との学びでつくり上げる！～

- **学習のめあて**，**課題**が分かる板書
- **授業の流れ**や**全体像**が見える板書
- 子供の**思考の過程**や**変容**が見える板書
- 学んだことや身に付けたことを**振り返る**ことができる板書
- **正しく**，**丁寧に**書かれている板書

板書のポイント　～思考を見える化して，まとめる！～

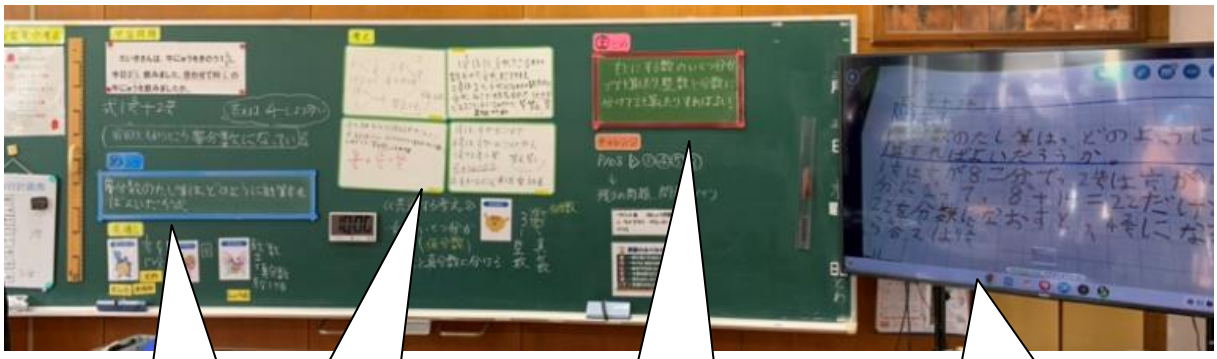
□　学級全員が見える文字の大きさ

□　分かりやすく整理

- 色チョークでの強調
- 矢印や線で関係づけ
- 囲み枠で区分け
- 太字や細字で軽重
- 絵や写真・図・表で可視化　など

□　小黒板やホワイトボードの活用（子供の思考を可視化）

【板書の例】



学習のめあて，課題が分かりやすく示されています。

ホワイトボードを使って，子供の考えを可視化しています。

学んだことを振り返ることができるよう，まとめられています。

大型ディスプレイを板書と併用して，効果的に活用しています。

～家庭学習について～

子供にとって家庭学習は，授業で学んだ内容を定着させるとともに，学習意欲の高まりや学習習慣の確立などの効果が期待できる大切な学習です。

しかし，家庭学習の習慣が身に付いていない子供にとっては，何を，どのように，どれくらい取り組めばよいか分からず，やる気も起きないため，それぞれの取組の質や量に大きな差が出ることも少なくありません。

そこで，本地区では，教師が課題を与える家庭学習に加えて，より一層の家庭学習の充実を目指し，「マイゴールチャレンジ」を共通実践事項として設定しています。

家庭学習の充実「マイゴールチャレンジ」

- □ 家庭学習の「質」「量」の充実
- □ 家庭学習の主体的な「ゴール」の設定
- □ 授業と連動した内容の充実やＩＣＴを活用した方法の工夫改善

家庭学習「マイゴールチャレンジ」の実施に当たっては，「質」と「量」を充実させるために，まず，子供が主体的に取り組み，教師や保護者がそれを支えることが大切です。そのために，子供に家庭学習におけるゴールを設定させ，学校，子供，保護者が共有するような工夫が必要です。

また，家庭学習の内容を授業と連動させる工夫をすることにより，基礎的・基本的な内容の定着を図ったり，より深く授業の内容やその良さを理解させたりすることになります。

他にも，ＩＣＴを活用した方法の工夫改善を行うことにより，例えば子供に合った進度で学習アプリ等を解かせ，その状況を把握し，以後の個や全体への指導に生かすなど，個別最適な学びの実現につながります。

留意点として，家庭学習を与えられたものから自主的な学習に発展させることが大切です。子供が主体的に学習内容や方法等を自己選択・自己決定して進めていくことができるように，発達段階に応じて取り組ませたいものです。

実践例　天城町立岡前小学校

岡前小学校では，「児童が自ら課題を捉え，学びに向かい続ける」ことができるように，年度初めに児童と保護者へ「家庭学習の手引き」を使って，その意義や目標時間，目指す姿などについて説明，共有しています。

家庭学習を宿題＋自主学習と捉え，学年に応じた授業と連動した内容の充実や，ＩＣＴを活用した方法の工夫，自主学習の推進に力を入れています。

岡前小学校では，習熟や学び合いを重視した授業を取り入れており，その際，児童は前時の終末に学習課題を受け取り，家庭学習で自力解決して授業に臨むこととしています。

家庭で時間をかけて学習課題に取り組むことにより，児童は授業に自信をもって臨む姿が見られるようになってきました。

なお，提出はＩＣＴを活用することにより，教師が事前に児童の状況を把握できるため，

授業や授業前後の時間に声かけや支援を行うことができます。

自主学習については，児童が興味・関心や必要性を感じる学習内容について，ノートに書き込み学習を進めていきます。全て書き終えた全員分のノートは，教室内に「自主学習タワー」として積み重ねています。児童それぞれが達成感や他への称賛の気持ちを味わうことができ，学習意欲の高まりにつながっています。

家庭学習を生かした授業の様子

自主学習タワー

家庭学習とは？

家庭学習とは，宿題と自主学習（自学）のことです。

家庭学習＝宿題＋自主学習（自学）

◎ 宿　　題 … 学校から出される課題です。「読む」「書く」「計算する」などの基礎学力を身に付けることを目指します。

◎ 自主学習 … 自分で課題を見つけて取り組む学習のことです。苦手な学習に取りくんだり，自分で調べたりする中で，学習への意欲と習慣を身に付けることを目指します。

家庭学習の意義は？

学習内容の定着
学校で学習したことを家庭で復習することにより，習熟・定着を図ることができます。特に，漢字や計算などは，毎日繰り返し練習することで定着していきます。家庭での反復学習によって，学校で「わかった」ことが「できる」という自信に変わっていきます。

脳の活性化を図る
読み・書き・計算等を毎日繰り返すことは，脳の活性化につながるといわれています。脳も手足の筋肉と同じように，毎日繰り返し使うことで活発に動くようになるのです。

学ぶ習慣を身に付ける
家庭学習を毎日続けることで，自ら進んで学ぶ習慣が身に付きます。毎日続けることで，やがて，当たり前の習慣になります。継続していくことが大きな力につながります。

がまん強さ・根気を身に付ける
子供たちは「やりたいこと」が優先され，「やるべきこと」が後回しになってしまったり，時間を上手に使えなかったりすることがあります。家庭学習を「やるべきこと」として継続していくことで，がまん強さや根気が身に付いていきます。

家族のふれあいの時間をもつ
「音読を聞いてあげる」「勉強がわからないとき，一緒に考えたり助言をしたりしてあげる」など，家庭学習をしている子供に保護者が関わることで，コミュニケーションが図れます。

家庭学習を行うにあたって

宿題（　　）分 ＋ 自主学習（　　）分 ＝（　　）分　を目指します！

【各学年の目標目安時間】　※　読書時間はのぞく

１年生：３０分	２年生：４０分	３年生：５０分
４年生：６０分	５年生：７０分	６年生：８０分

～家庭学習のポイント（学習に集中するために）～

① 〈学習の習慣化〉　学習を始める時刻を決めて，毎日取り組む。
② 〈集中力の向上〉　テレビ等は消して，集中して学習する。
③ 〈効率化の向上〉　机の上を整理整頓して，よい姿勢で学習する。
④ 〈時間の使い方の向上〉　時間を計って，計画的に学習する。

ポイント!

目指す子供の姿

低学年…基本的な学習習慣を身に付ける
中学年…自ら学習に向かう習慣を身に付ける
高学年…自ら計画を立て，自力で学習を進める

子供の力がますます伸びていくように，学校と家庭で連携をとって家庭学習にも取り組んでいきましょう！

家庭学習の手引き

【引用・参考文献】

「学習指導要領解説総則編」　平成 29 年　文部科学省
「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」　令和３年
文部科学省
「生徒指導提要」令和４年　文部科学省
「学びの羅針盤」　令和６年　鹿児島県教育委員会
「教職員のための研修の手引き」　令和６年　鹿児島県総合教育センター
大和村教育委員会「島人が成し遂げた無血革命　奄美群島日本復帰運動」令和４年
奈須正裕「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を目指して　令和５年
北大路書房
木村明憲「自己調整学習」　令和５年　明治図書
石井英真「授業づくりの深め方」　令和２年　ミネルヴァ書房
田村学「深い学び」　平成 30 年　東洋館出版
平野朝久「はじめに子どもありき」　平成 29 年　東洋館出版
加戸守行・下村哲夫「初任者研修指導者必携」　平成元年　第一法規
大村はま「教えるということ」　昭和 48 年　共文社